

5億円の随意契約は 市民理解得られない リム・ふくやま改修工事



今回の5億円の工事の他、エレベーター改修など4億1300万円は既に発注されています。



発行所
福山民報社
福山市霞町
3丁目4番地25号
Tel.922-2815
Eメールアドレス
info@fjcp.com
ホームページアドレス
http://www.fjcp.com/

西町の、福山市が所有する商業施設（リム・ふくやま）に関する改修工事の契約について、市は6月27日に行われた市議会本会議で、随意契約による工事契約案を提案しました。

同案は、地上9階、地下2階、延べ約4万㎡のビルのうち、地下2階から地上5階について、内装や電気、機械設備などの工事を、一括して大阪市の大和ハウス工業株式会社に発注する内容です。契約金額は5億3025万円と、高額です。

このビルの地下1階から地上5階などの約2万4800㎡は、現在、大和ハウス工業の子会社の、大和情報サービス（本社は東京）が賃貸借契約を結んでいます。市は、同ビルを改修し、9月中旬のグラウンドオープンを目指すとしています。この契約の問題について考えます。

矛盾だらけの5億円の随意契約
通常の公共工事は、競争入札を行います。

ところが、今回の工事は「9月に工事を完成させるという工期が限られる上、テナント構成に合わせた工事は大和ハウス工業以外は困難」「大和ハウス工業はビルの事を熟知している」との理由で大阪の企業と随意契約を結びました。これは極めて異例です。

市内で対応できる工事ばかり

市は、随意契約をする法的根拠として、地方自治法施行令167条第1項をあげ、「この契約は競争入札に適しない」としています。しかし、そもそもこの解釈は、不動産の買入れや、物品の製造と修理、加工や納入など、限定的な契約のみに適用されます。今回の工事は、電気配線や内装など、福山市内の企業で対応できるものばかりで、わざわざ大阪の企業に発注しなければならぬ理由はありません。

文教経済委員会で、土屋ともりの市議の質問に、市は「相見積は行っていない」と答弁しました。随意契約と言えども、最低

限、「2つ以上の業者から、相見積を行わなければならない」と、市内規で定めているにも関わらず、それすらも行っていません。

「時間が無い」と言いながら…

市は随意契約の理由を「9月のグラウンドオープンまで時間がないから」と、説明しています。ところが、今回の工事完成予定日は、2013年12月27日です。

さらに、このビルの改修工事の必要性は、昨年3月には、既に明らかになっていました。計画的に、工事を計画していれば、入札する時間は、十分確保できたはずで

高すぎる価格 —落札率96.76%



2013年度予算は、施設の工事請負費は、5億4800万円が計上されていますが、今回の契約価格は、その96.76%にあたります。

大切な血税を使う以上、節減し、効率的な予算執行が行われなければなりません。随意契約では、競争性や透明性が確保されません。

同日に提案し即日採決 —説明責任果たされず

今回の議案は、5億3025万円という、高額な公共事業であるにも関わらず、議案が提案された同日に、採決を強行しました。

さらに、通常の議案は、議会の前日には、全議員に提出されてきましたが、そのような取り組みも行われず、議案は当日示されま

した。行政の説明責任は、全く果たされておらず、議会軽視と言わざるを得ません。これらのあり方に厳しく抗議したのは、日本共産党市議団だけでした。

市民運動の広がりを

高額な公共工事を随意契約で締結するという、市民理解が得られにくい契約について「なぜ大手ばかりか」「地元建設業は疲弊しているのになぜ市外に発注か」と疑問や懸念の声が寄せられています。福山市の公共工事のあり方について、市民目線でチェックする運動の広がりが求められます。

核廃絶を発信—国民平和行進

7月26日、2013年国民平和行進の村田澄男さんは「5月広島県に入りました。岡山県の約80人の行進団が正午過ぎに福山市大門町の三角公園に到着し、引き継ぎ式を開きました。その後、福山で団体旗を受け、岡山県原水協の花田代表理事が「参院選で改憲勢力が圧勝した。憲法改悪反対の運動と核廃絶の運動を同時に進めよう」と土屋知紀市議も参加しました。